

『回復の時が来て』（使徒の働き 3章 17-26節） 2023.6.11.

<はじめに> 美しの門に座らされていた足の不自由な人が、立ち上がり歩き、神を賛美する者へと変えられました。これを不思議がって群がる人々に、ペテロは解き明かしを語り出します。「十字架で殺され、しかし神がよみがえらせたイエスの名を信じる信仰のゆえです」と。

I 過去の表裏(17-18)

①さて兄弟たち(17)

群衆の大半は先頃の十字架の目撃者で、指導者たちの扇動によって「十字架につける」と叫んだ当事者です。ペテロは彼ら自身の過去の行いと心に話題を向け、それが無知から出たものであると指摘します。彼らは何に対して無知だったのでしょうか。

②予告の実現(18)

十字架の出来事は偶発ではなく、神がすべての預言者を通して予告されていました。ユダヤ人なら聞いていたはずなのに、彼らは悟ることなくそれに加担し、これによって預言は実現しました。このパターンは、語るペテロ自身も経験したことです(マタイ 26:74-75)。

③モーセの預言(22-24⇒申命記 18:15,17-18)

預言の代表例として、モーセのことばをペテロは取り上げます。モーセを否定するユダヤ人などいません。そのモーセが言及している「一人の預言者」こそイエスに他なりません。このイエスは、罪に陥る「あなた」のために「あなた」の神が先備えされた救い主です。

II 今すべきこと(19)

①悔い改めて立ち返りなさい(19)

神を知り、帰依しているつもりでも、実は神に背いていたと気付いたなら、道は二つ、突き進むか、神に立ち返るかです。過去の罪を消したり無かったことに人はできませんが、神は罪を赦す方です(詩 130:4)。

②罪はぬぐい去られます(19)

神が預言者を通して予告されたのは、イエスの十字架と復活とともに、そこで露呈した人々の反逆と罪さえも赦すというご計画です。復活はその保証です。「ですから」「そうすれば」とペテロは人々を取るべき道をはっきりと語り示します。

③ペテロの経験(19)

「ですから」「そうすれば」は、ペテロの経験から出た確信のことばでもあります。彼もイエスの予告を無視し、イエスを裏切り見捨てました。しかし、イエスはペテロに現れ、悔い改めて立ち返る機会を与えられました。このメッセージは今も経験者に委ねられています。

III 回復の時が来て(20-23)

①イエスを遣わして(20)

この「イエスを、主は遣わし」は、既に見たイエスの生涯ではなく、やがて救い主(キリスト)、王の王として再び来られることを指しています。それは新しい世界に切り替わる「万物の改まる時」です。この世の終わりは、イエスを信じる者にとって回復の時、慰めの時です。

②聖なる預言者たちを通して(21)

預言者たちは「終わりの日には…」と何度も語り、その厳粛な場面を描いています。今、私たちが生きる世界はやがて必ず限界が訪れます。それは私たちには悩み・苦しみの日に映りますが、神はその日のために、救い主イエスを天に待機させておられます。

③イエスに聞き従え(22-23)

神のことばは確実に実現する、ということ、ペテロもエルサレムの人々も、失敗を通して深く学びました。私たちはどうでしょうか。悔い改めて神に立ち返った者は、「あなたはわたしに従いなさい」(ヨハネ 21:22)と語られるイエスが告げるすべてに聞き従います。

<おわりに> これまでの歩みと今の現実を自分の視座から見ただけでは、一面しか見えません。自分とは異なる視点から、広く深く長く見ておられる神のことばに耳を傾けましょう。そうすれば、同じものを見ながらも、全く異なる新しい世界が見えてきます。(H.M.)